

ガーデンを考える会 被災地小学校支援活動

岩手・宮城の13校で実施



植え込みの様子



参加いただいた皆さん



花育授業の様子

NPO法人ガーデンを考える会では、東日本大震災被災地の小学校に対する支援活動として、春と秋に支援活動を行っています。今秋は、岩手県釜石市の小学校2校および宮城県気仙沼市の小学校11校に対し、6回目の支援活動を行いました。

冬から早春の校舍周りを彩ることができるよう、会員メンバーからパンジー・ビオラを主体とした花苗や秋植え球根、それを植え込むコンテナや用土及び肥料等、またそれらを購入する資金を募り、9校には物資の支援、4校には実際に訪問してコンテナや花壇づくりの支援、及び花育授業活動を行いました。

今回は会員有志10名と10月24日に気仙沼市の小学校4校（小原木小学校・鹿折小学校・唐桑小学校・中井小学校）

を訪問し、児童や仮設住宅の皆さんと共に花苗等の植え込み活動を行いました。コンテナへの植え込みは、6回目ともなるとすでに1度は経験した児童がほとんどで、簡単な説明だけでどんどん手早くスムーズに植え込めるようになってきました。

仮設住宅の人々も残っている人々はお年寄り主体で人数も少なくなってきましたが、手際よく植え込みが進んでいきます。また、昨年からの取り組みを行っている花育授業は、植え込みとは違った興味を持ってくれ、切り花を使ったアレンジづくりをしながら植物についての話を熱心に学んでくれました。

＊

気仙沼では被災地の象徴的な風景であった大型船の解体も終わり、港湾周辺の施設も復旧が進み、にぎわいを取り戻しつつあるのが実感できます。ところが、訪問した小学校から10kmも離れていない陸前高田市では、以前に見られた半壊したビル等や瓦礫の撤去作業が終わり、一面に雑草が生えただけの何もない、かつて街があったとは想像すらできない風景が広がっています。

そんな荒れ野原のような中、山際に近い一部に、ちよつとしたガーデンが作られています。恐らくボランティアにより植え込みがされているでしょう、色とりどりの花たちが、全く人の気配の

ない荒涼とした風景を和ませてくれました。

震災から2年半以上が経ちましたが、沿岸部の住居があった地域では、おおむねこのような状況です。我々が日常の仕事をしたり、家族と暮らしている風景とは全然違う景色です。

ここには園芸関係者だからできる支援が確実にあると思われれます。ちよつとした「一緒にやろう」という気持を持っていただければ、悲しい風景に花を咲かせることができるようになります。

あの未曾有の大災害を風化することなく、できるだけ多くの人々が支援に係っていたけるよう、ガーデンを考える会では継続的な支援活動を予定していますので、ぜひとも多くの皆さまが参加していただけるよう期待しています。

（NPO法人ガーデンを考える会

会長 水野 隆）

今回特別に支援活動に 協賛いただいた会員等の皆さま

アップルウエア(株)／(株)アルパティオ／キムラグリーン(株)／(株)シモジマ／豊明花き(株)／中島商事(株)／(株)ハイポネックスジャパン／ハクサンインターナショナル(株)／(株)花ごころ／北越農事(株)／(株)フラワーオークションジャパン／(株)牧野／(株)ユニソン／(株)緑花技研／(株)レイ・ハウス／園芸業界被災地支援の会